



健康豆知識

こんな症状がでたら要注意！脳梗塞編

皆さん、脳梗塞は高齢者に多い病気だと思いませんか？
実は若い人にも起こる病気なのです。脳梗塞は60歳以上の人に多く発症していますが、45歳以下の人にもみられます。高血圧や高脂血症などの生活習慣病があると脳梗塞になるリスクが高くなると言われ、そのほかにも喫煙など様々な要因が関係してきます。

脳梗塞とは？

脳梗塞は脳の血管が細くなったり、血栓が出来て血管がつまってしまう症状です。血管がつまると血液の流入が止まり、脳に酸素や栄養が行き渡らなくなってしまいます。その結果、脳の神経細胞が壊死してしまい、さまざまな障害が生じてしまいます。

原因

主に原因は動脈硬化や心室細動、不整脈などが考えられています。動脈硬化は血管の弾力性が失われ、血栓などによって血管が詰まりやすくなってしまう状態です。健康な血管であれば血液は留まることなく流れていきますが、動脈硬化によって血管内に血流が滞る場所が出来るとそこで血液が固まりやすくなり、血栓が出来やすくなってしまいます。こうして脳の血管内に作られた血栓や心臓から運ばれた血栓が脳の血管をふさいでしまうことで脳梗塞が引き起こされます。

こんな症状がでたら注意！！



言葉が出てこない



手足がしびれる



フラフラする

ほかにも物が2重に見えたりめまいが起きたりとさまざまな症状が出る場合があります。こういった症状が発生した場合、すぐに受診をし早期に治療をすることが大切です。また、脳梗塞の前兆と言われる一過性脳虚血発作は、脳梗塞の症状が現れて短時間で消えてしまいます。

一過性脳虚血性発作を起こした場合48時間以内に脳梗塞を起こすことが多いとされているので注意しましょう。

参考資料

DoctorsFile